

令和7年産大崎地域の 大豆作技術情報(第2号)

令和7年6月23日発行
宮城県大崎農業改良普及センター
TEL: 0229-91-0726 FAX: 0229-23-0910
<https://www.pref.miyagi.jp/site/osnokai/>

～栽培のポイント～

- ・発生草種と使用時期に注意して茎葉処理除草剤を散布し、雑草防除を徹底しましょう。
- ・中耕培土は、大豆生育と天候を見極めて、2回を目安に適切に実施しましょう。

1 気象経過

- ・5月第6半旬は130 mmを超える降雨があり低温少照であった。6月以降は高温に推移し、6月第1半旬・第2半旬は少雨、第4半旬も降雨は少なかった。日照は6月第2半旬・第4半旬は平年を上回る多照であった。
- ・東北部では、平年より2日遅い6月14日に梅雨入りした。

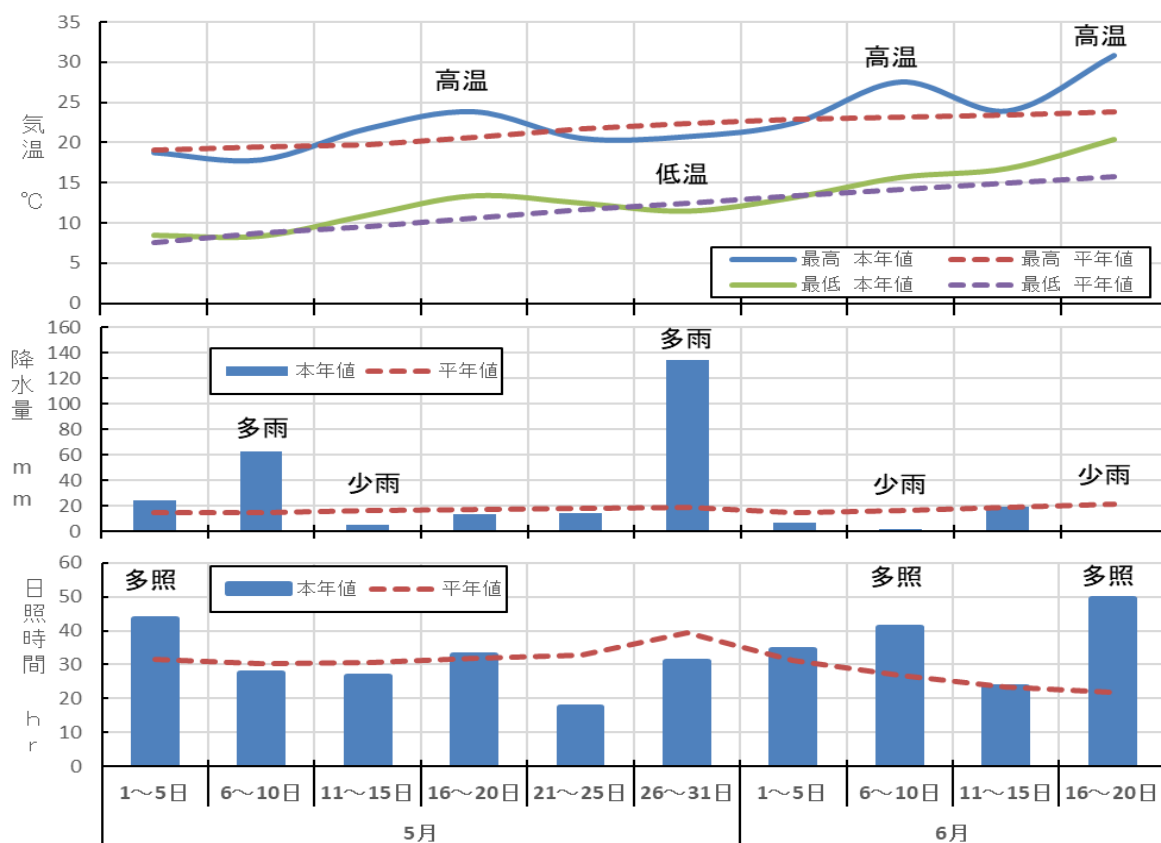


図1 気象経過 (古川アメダス)
※実線または棒グラフが本年値、点線は平年値

2 雑草防除

(1) 茎葉処理剤散布のポイント

- 大豆の2～3葉期を目安に散布しましょう。

- ほ場に発生している雑草を確認し、草種に合わせて効果の高い除草剤を散布しましょう。
- 大豆バサグラン液剤とアタックショット乳剤では、効果が高い草種が異なります。また両剤ともイネ科雑草への効果は劣るので、イネ科雑草が混在する場合は、イネ科雑草に有効な除草剤との体系で使用しましょう。

▶大豆バサグラン液剤の特徴

- 除草効果を優先する場合は、高温・多照条件で散布する。
- 薬害回避を優先する場合は、極端な高温・多照を避ける。

大豆バサグラン液剤の効果が高い雑草



オオイヌタデ



アメリカセンダングサ

▶アタックショット乳剤の特徴

- 高温で効果が下がる場合があるが、大豆バサグラン液剤より効果の変動は小さい。
- 薬害症状が大豆バサグラン液剤より発生しやすく、低温により症状が大きくなる。
- 他剤との混用により、明らかに薬害症状が大きくなり、生育抑制が助長される。
- ※来年以降は供給が無くなるため、現在アタックショット乳剤を使用されている方は、来年は他の除草剤への切り替えを検討してください。

アタックショット乳剤の効果が高い雑草



シロザ



ホソアオゲイトウ



イヌホオズキ

イヌホオズキへの効果が高いため、他の除草剤へ切り替えを行う際はイヌホオズキの発生が懸念されます。対策として大豆播種後のラクサー乳剤(全面散布)、中耕培土後はリニュロン水和剤(畦間・株間処理)が効果的です。

▶パワーガイザー液剤の特徴

- 大豆の出芽直後でも全面処理できるため、雑草の発生が早い場合でも対応できる。
- 作用発現はやや遅効的で、薬剤の散布後約1週間で変色し、2～3週間で枯死する。

表1 茎葉処理剤一覧 (全面散布が可能なもの)

※全面散布の場合

除草剤名	対象	使用時期	希釈倍数使用量 (散布液量)	本剤の 使用回数
大豆 バサグラン液剤	一年生雑草 (イネ科を除く)	※大豆の2葉期～開花前 (雑草の生育初期～6葉期) (ただし収穫45日前まで)	※100～150mL/10a (100L/10a)	2回以内 (畦間処理 は1回以内)

アタック ショット乳剤	一年生広葉雑草	本葉2葉期～開花前 (雑草生育期) (ただし収穫45日前まで)	30～50mL/10a (100L/10a)	1回
パワー ガイザー液剤	一年生雑草	※出芽直前～3葉期まで (雑草発生始期～2葉期)	※200～300mL/10a (100L/10a)	2回以内 (畦間処理 は1回以内)

注) 農薬の登録情報 (令和7年6月17日現在)

(2) 難防除雑草対策のポイント

難防除雑草(帰化アサガオ類、アレチウリ等)は、種子の生産量が多く、ほ場内に非常に早く拡大していきます。大崎管内においても、多発ほ場が散見されます。ほ場内外で発生が確認されたら、早めの対策を行い拡大防止に努めましょう。

▶ 難防除雑草は入れない・広げない

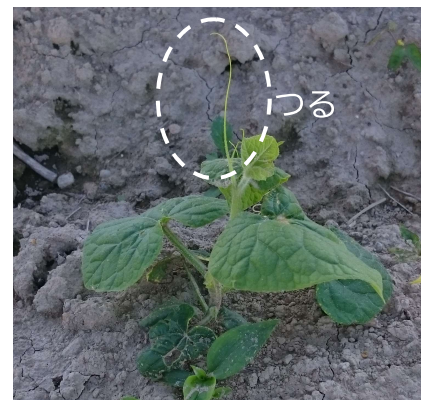
- ほ場の周辺に気を配る⇒畦畔などほ場の周辺から侵入することが多い。
- 他のほ場に移動させない⇒発生ほ場の機械作業は最後に行い、作業終了後は機械の清掃を徹底する。
- 侵入初期に手取り除草を含めて徹底的に防除する。

▶ 茎葉処理剤散布のポイント

- 大豆の2～3葉期(雑草が小さいとき)を目安に、早めに散布する。
- つるが伸びると大豆に絡みつки、薬剤が掛かりにくくなるので、つるが伸びる前(小さいうち)に散布する。つるが伸びて大きいものは手取りで除草する。



帰化アサガオ類



アレチウリ

※実証試験実施中

普及センターでは、全農東北営農資材事業所等関係機関と共同で、耕起前のラウンドアップマックスロード処理と大豆播種前のトレファノサイド乳剤の土混和処理を組み合わせ、帰化アサガオ発生を抑制することで既存の土壌処理剤と茎葉処理剤の効果を安定化させる新たな防除体系について効果検証を実施しています。

3 中耕培土

中耕培土には不定根による生育促進や土壌の攪拌による雑草の耕種防除等の様々な効果があります。

梅雨時の作業となりますが、大豆生育と天候を見極めて、適切に実施しましょう。

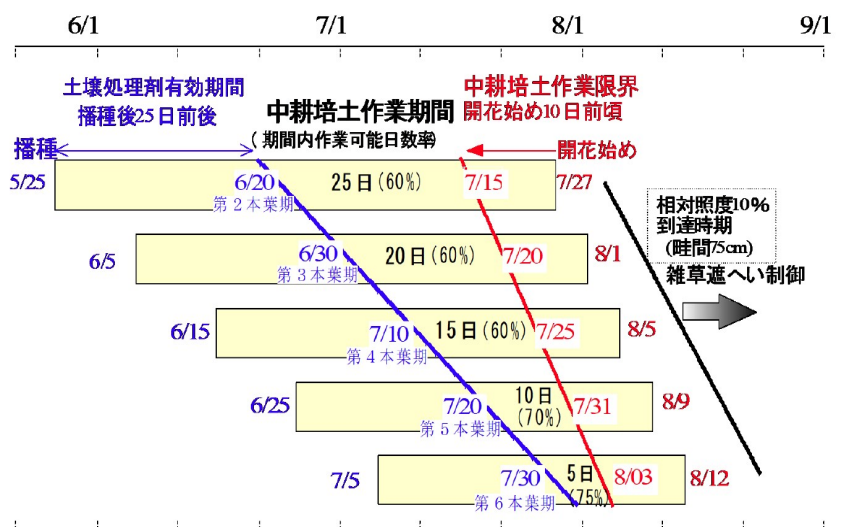


図 中耕培土作業可能期間のめやす

▶中耕・培土の留意点

- 効果を高めるために必ず2回行う。
- ※雑草の発生が著しい場合は3回実施する。
- 遅くとも開花の10日前までに終わらせる。
- 株元へしっかり土寄せする。
- 株元に土が掛からないと、以下の悪影響が考えられる。
 - ・水たまりができる（湿害の誘因）。
 - ・不定根の発生が抑制される（生育不良）。
 - ・倒伏しやすくなり、刈り取りが困難となる。

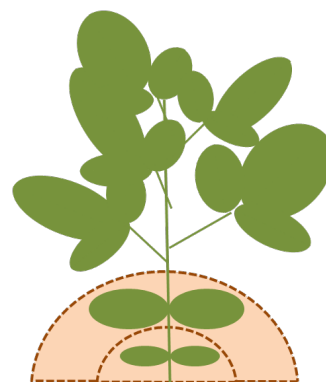
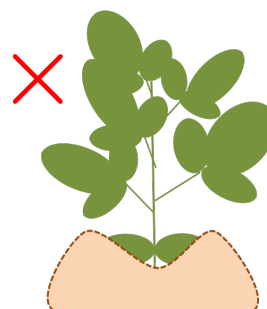


表3 中耕培土の目安（5月下旬～6月上旬播種）

回数	作業時期	培土の高さ
1回目	本葉2～3葉期	子葉節が隠れる程度
2回目	本葉6～7葉期	初生葉が隠れる程度

注）晩播の培土は本葉5～6葉期に1回行う。



東北地方1か月予報（6月21日から7月20日までの天候見通し）

令和7年6月23日 仙台管区气象台 発表抜粋

<特に注意を要する事項>

期間の前半は、気温がかなり高くなる見込みです。

<向こう1か月の各階級の確率（%）>

	低い(少ない)	平年並	高い(多い)
【気温】 東北地方	10	10	80
【降水量】 東北太平洋側	40	30	30
【日照時間】 東北地方	20	40	40

<気温経過の各階級の確率（%）>

	低い	平年並	高い
1週目 東北地方	10	10	80
2週目 東北地方	10	20	70
3～4週目 東北地方	10	30	60

◆◆◆◆◆春の農作業安全確認運動実施中（3月1日～6月30日）◆◆◆◆◆

令和7年農作業安全確認運動スローガン 「徹底しよう！農業機械の転落・転倒対策」

◆◆◆◆◆農薬危害防止運動（6月1日～8月31日）◆◆◆◆◆

運動のテーマ 「守ろう 農薬ラベル、確かめよう 周囲の状況」

「大崎地域の稲作技術情報」,「大崎地域の大豆作技術情報」,「大崎地域の麦作技術情報」は、当普及センターのホームページでもご覧いただけます。インターネットで「大崎農業改良普及センター」と検索または右のQRコードを読み取ってください。

